

GOKURAKUJI DAYORI  
極楽寺だより  
2021(令和3)年 3月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）〒759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

# 春の彼岸会法要の「案内」

三月四日（木）

昼一時半

【野波瀬の方】

三月五日（金）

昼一時半

【野波瀬以外の方】

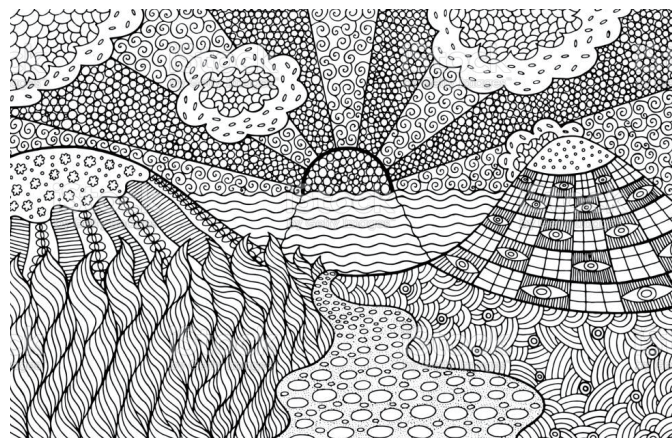
市外の方は、申し訳ありませんが、  
今回も参拝自粛をお願いします。

講師

三隅浅田 西福寺住職

和隆道師

コロナ禍の影響を鑑み、急遽三隅地区  
のご講師にお願いしました。



「pāramitā（パラミタ）」とは、インドのサンスクリット語で、「到彼岸」（覚りの世界に到る）をあらわします。

※今回も、地区別に参拝日を分けました。  
ご都合により、違う日にお参りされても  
構いません。

※今回は、夜の法座はありません。

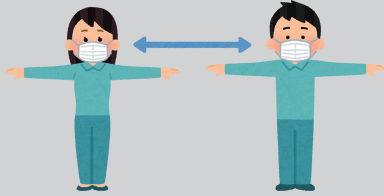
※長門市におけるコロナ禍の状況次第で、  
急遽中止となる場合もあります。

## 参拝における注意点

37.5 度以上の発熱がある方、  
せきや倦怠感、のどの  
痛みなどのある方は、  
ご遠慮ください。



椅子の配置も距離をとっています。  
ソーシャルディスタンスにご協力くださ  
い。



マスク着用をおねがいします。



おしゃべりも、マスク着用で。

除菌アルコールを  
用意します。  
お使いください。



こまめに換気をします。  
寒い時期ですので、服装にご注意ください。

# 極楽寺だよりを 送riませんか？

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁  
の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。  
送り先が増えると、住職はうれしいのです。

近頃は、いろいろな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情  
報に振り回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関す  
ることについても、都会では気軽に相談するところがありません。少しでもお寺を身近に  
感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」がお役に立つのでは…、などと  
思っています。どうぞ遠慮なくお申し出ください。

# お江戸から OSAME NO KAKERA



だれ おに しやかい  
誰もが鬼になりうる社会  
『鬼滅の刃』から、見えてくるもの

今、『鬼滅の刃』というアニメが大ヒットしているのをご存知でしょうか。『週刊少年ジャンプ』で連載されていたこのマンガは、アニメ化されて大ヒット。昨年末には映画化され、コロナ禍にもかかわらず日本の歴代興行収入の新記録を更新しました。東京の映画館では、なんと一日で四十二回も上映したところがあるそうです。もちろん私は、原作のマンガは全部読みましたし、アニメも観ています。映画は、まだなのですが…では、この『鬼滅の刃』が、どうしてこれだけヒットしたのでしょうか。様々な人たちの声を手掛かりに、私なりに読み解いてみたいと思います。

舞台は、大正時代。人間を襲う鬼と、鬼に立ち向かう主人公たちを描いた物語です。もちろん主人公と仲間たちも魅力的なのですが、何より鬼たちの描かれ方が興味深いのです。

鬼は、かつては人間でした。鬼の親玉によって鬼となり、人を襲うようになったのです。そして主人公たちに倒され死んでいく時、鬼たちの脳裏には、人間だった頃の記憶が走馬灯のように蘇る。その切ない感情が描かれます。

退治されて当然と思っていた「悪」である鬼が、かつては弱い人間だった。彼らにも、彼らなりの事情があり、悲しみがああり、痛みがあった。貧困、差別、屈辱、コンプレックス、人生の理不尽さ。悲哀や苦悩の中で、鬼の親玉の誘惑に付け込



まれ、鬼になったこと。そこには、それぞれに胸を打つス  
トリーがあり、見ている側の私も「彼らにも、そんな事  
情があったのか」と思われる。そして主人公は、その悲  
しみにそっと寄り添います。

人を殺した鬼ですから、殺された側からすればたまつた  
ものではありませんが、でも、その意外な思いの強さに  
心打たれる。何か、不思議な感情を手渡されてしまう。そ  
こに、この作品の凄さを見る人が多いのです。

また、精神科医の片田珠美先生は、『鬼滅の刃』大ヒッ  
トの要因に「自分の身近に鬼がいるかもしれない、あるい  
は、自分自身も鬼になるかもしれない」といった不安を、  
現代社会に生きる私たちは抱えているからだと言及され  
ています。〔全集中！「鬼滅の刃」考、誰が「鬼」になるかわからない時代、メガヒッ

トは生まれた 精神科医・片田珠美さん』毎日新聞 2020年11月11日

例えば、コロナ禍で「トイレットペーパーがなくなる」  
というデマが流れ、買い占めが起きた時、あるドラッグス  
トアの店員さんがSNSに、「コロナより人間が怖い」と  
書き込みました。「トイレットペーパーはないのか!と、  
今まで優しかった人々が、殺気立って、とにかくイライ

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～



ラをぶつけてくる。人が鬼に見える」と。  
今まで優しかった人が、不安や恐怖  
に煽られると、鬼のような行動をする。  
鬼のような行相で、クレマーと化す。  
いつもは普通の人々が、インターネットや  
SNSの世界では、冷酷に人を叩き、嘲り、踏みにする鬼  
となる。まさに身近に鬼がいて、いつ現れるか、いつ叩か  
れるかわからない時代です。

そして同時に、自分も「いつ鬼になるかわからない」と  
いう不安も抱えているのだと片田先生は言われます。そ  
れを切実に感じられたのは、二〇〇八年の秋葉原で起こつ  
た無差別殺傷事件でした。

事件を起こした加藤智大死刑囚は、元は普通の  
派遣社員。中学までは優等生で、高校は地元でトップの進  
学校に合格したのですが、その後伸び悩み、短大卒業後は  
就職できず、派遣社員として転々。加えて、加藤死刑囚  
は「非モテ」（女性にモテない）であることをとても気に  
していたようです。

その時、片田先生が注目したのは、非正規で非モテの  
若い男性たちの「自分も加藤死刑囚のようになっていた



かもしれない」という声の多さです。人生に、確かさも温もりも感じられない。いつ職を失うかもしれないという不安にも怯えている。先生の病院に通ってくる若者にも、同じ状況の人たちがたくさんいて、いつキレて自分が鬼になるかわからないという不安を抱えています。

「ああ、誰が鬼になっても不思議ではない社会が到来した」と片田先生は感じたそうです。確かにその後も、同様の無差別殺傷事件は、数多く起きています。

しかし『鬼滅の刃』では、人を何人も殺した鬼でさえ、そこには事情があり、苦悩があつたことを汲み取ってくれる。主人公は、鬼の悲しみに寄り添ってくれる。自分も、もしかしたら鬼になるかもしれないリアルに思う人の心に、その優しさが響いてくる。そこに、この作品の魅力があるのではないだろうか。

では、どうすれば鬼にならずに済むのか。片田先生は、

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

「そのカギは、家族をはじめとする人とのつながりだ」と言われます。自分が死ぬ、あるいは罪を犯すと「あの人が悲しむだろう」と想像すること。この作品内でも、主人公や彼の妹が鬼になるのを止めたのは家族のつながりですし、実際に大切な人の顔が浮かぶことで、自殺や犯行を思いとどまる例はかなり多いようです。

とは言え、親戚付き合い（血縁）はほとんど無くなり、地域共同体（地縁）も崩壊しつつあり、それに代わる社会を基にしたつながり（社縁）も廃れています。そこには煩わしさもありましたが、同時に温もりも、大切にしてくれる人との出遇いもありました。それらを、目先の「楽しさ」だけを求め、「損か得か」でしか考えず、「便利さと合理性」を優先する価値観で、私たちが切り捨ててきたのです。その価値観は、すでに家庭内にも広がっています。温もりのあるつながりや、大切にされる経験を奪われて「あとは自己責任」と放りだされた彼らに、大切な人の顔が浮かべば良いのですが…。

ところで、二〇一九年にヒットした『ジョーカー』という映画をご存知でしょうか。アメリカン・コミックのヒーロー

ロー「バットマン」の悪役・ジョーカーの誕生秘話を描いた映画です。

心優しい青年アーサーは、格差社会が生んだ貧困の中で、脳神経の病いを患い、職を失い、屈辱を与えられ続

けます。そして遂には、自分を笑ひ者、

晒し者にしたテレビ司会者を射殺します。その時彼は、こ  
う叫ぶのです。

「失うものがない男を怒らせたなら、どうなるのかを思い  
知らせてやる！」

こうして、悪のカリスマ・ジョーカーは誕生しました。  
温もりやつながりを、職を奪われ、そして人格を否定され、  
失うものがないほどに追い詰められた結果が、鬼を生み出  
したのです。この映画は、残酷なシーンの多さにR指定  
(年齢制限)されながら、史上初の全世界収入一〇億ドル  
を超える大ヒットを記録しました。

『鬼滅の刃』や『ジョーカー』の大ヒットは、「自分の  
身近に鬼がいるかもしれない、あるいは、自分自身も鬼  
になるかもしれない」といった不安がリアルに迫ってくる。  
とても映画の中の話や他人事とは思えない。まさに、



バットマン

~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~

そんな時代背景を表しているように思えます。「さるべき  
業縁(ごうえん)のもよほさば、いかなるふるまひをもすべし」(『歎異  
抄』)。縁に触れれば、何をしでかすのかわからないのが私  
たちなのだという、親鸞聖人の言葉が胸に突き刺さつてく  
るようです。

精神科医で作家の岡田尊司

先生は、「人間関係内でのつ  
ながり」や「愛情」の欠落と

いう問題は、かつては宗教が担っていたものだったと言わ  
れます。

「親のいない子、親に愛されない子にも、等しく神や仏  
の愛が注がれるという信仰は、欠落を補う強力な装置で  
あった。この世の移ろいやすい愛よりも、もつと不変の  
偉大な存在の愛を信じ、感謝することによって、不足した  
愛への怒りや不満や悲しみを乗り越えることができた」

(『死に至る病』岡田尊司)

その宗教も、心の拠り所としての機能を、既に失って  
います。それは、世の中の流れと同時に、私たち宗教者  
の責任でもあるのでしょうか。↗



しかし、心の拠り所を信仰に求め、苦難を受け止めながら、人生を歩まれた人々の歴史は、確かに存在するのです。「周りの人に見捨てられても、阿弥陀様だけはいつも一緒にいてくださる」「阿弥陀様だけは、決して私を見捨てない」という安心感の中で生きられた人たちが。



阿弥陀様は、「苦悩の有情」（苦しみ悩む者）を救うために、仏と成られました。苦悩する私がいるからこそ、願（本願）を立て仏と成られたのが阿弥陀様なのです。だから、どんな私をも見捨てない。否定もされない。拝まない者も、背く者も、逃げる者をも、摂め取って捨てない。この私が否定されてしまったら、存在意義はなくなってしまう。それが阿弥陀如来という仏様なのです。

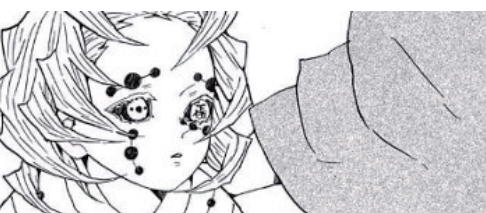
そんな阿弥陀様との出遇いを通して、温もりや、自分の大切さを実感し、人生の安心感をいただかれた方々の歴史が、確かにあるのです。

『鬼滅の刃』では、こんなシーンがありました。↓

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

ある鬼が死を前にして、昔を思い浮かべます。身体が弱く寝たきりだった彼は、鬼の親玉に「丈夫な身体をあげよう」と誘われ、鬼になりました。人間を食い殺す鬼になつた彼に、両親は嘆き悲しみます。そして、その罪を背負つて一緒に死のうとするのです。両親にとつても苦渋の決断だったのでしょうか。しかし逆に、鬼の彼に殺されてしまいます。

両親を殺した後、彼はその思いに気がつきました。親の思いを、つながりを、逆に断ち切ってしまった罪に悲しみ戸惑うのですが、鬼の親玉の「お前は、悪くない」という一言にすがりつきます。なぜなら、自分の犯してしまつた罪に耐えられないから。けれども、もう虚しさの中しか生きられなくなつてしまったのです。



一緒に行くよ  
地獄でも

その彼が死ぬ時に、思いました。「こんな僕は、もう地獄に行くしかない。父さんと母さんと同じところには行けないよね」と。そんな時、響いてきた言葉がありました。「そんなことはない。一緒に行くよ。地獄でも」

OSHIE NO KAKERA

お父さんの声でした。

「どこまでも、一緒よ」

お母さんの声でした。

その声を聞いて、彼は人間の心を取り戻します。

「ごめんね。僕が悪かったよ」と素直に涙をこぼしながら、死んでいくのです。

お前が地獄に行くのなら、私も一緒に往こう。それはまさに、阿弥陀様の願いそのものだと思います。阿弥陀様の本願は、「あなたが仏に成らなかつたら、私も仏になりません。あなたが地獄に落ちるなら、私も共に地獄に落ちよう」という願いだからです。縁に触れば何をしますかすかわからない私を、そこまで思い、願いつけていくのださる。そんな願いに包まれている私たちであることを、親鸞聖人は教えてくださったのです。

作家の五木寛之さんは、「親鸞聖人や蓮如上人の本を書かれていますか、どうしてですか？」という質問に対して、こう答えられました。

「私は、終戦後朝鮮半島から逃げてきました。その時に、とても言えないようなことをたくさんしてきました。良い」

～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

人は、生き残れない。悪人しか生き残ることができないような経験をしてきた。私の手は、汚れている。そんな思いが、いつもあった。でも、親鸞という人に出遇って、この私も生きられるのかもしれない、生きていいかもしれないと感じた」と。

どんな私をも、見捨てず、否定せず、損取つて捨てないで願われる世界がある。「あなたが地獄に行くのなら、共に地獄に往こう」と誓われ、寄り添ってくださる方がいるのです。そんな阿弥陀様の世界に包まれ、「阿弥陀様を悲しませるような生き方をしてはいけません」と人生を歩まれた方々の歴史を、今こそ取り戻さなくてはならない。

『鬼滅の刃』の大ヒットを通して、そう強く思っています。 ■





# 月々の言葉

Monthly Words



いたわり  
あつて  
いこうよ

極楽寺掲示伝道



## 1月の言葉

ある方が車に乗って信号待ちをしていた時のこと。開けていた窓まどから、こんな声が聞こえてきたそうです。

「かわいそうにねえ。あの人、目が不自由ふじゆうだから渡わたれな  
いんだね」

横断歩道を渡ろうとしていたお母さんが、小学校四、五年生くらいの娘さんに話しかけていました。道の反対側には、白い杖つえをついた男性が立っています。

すると女の子はすぐにその男性に駆け寄り、手を引き寄せて、一緒に横断歩道を渡りました。渡り終えるとお母さんのもとに帰ってきて、こう言ったのです。

「お母さん、あの人のはかわいそうな人じゃないよ。困こまっている人なんだよ」と。

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

車に乗っていた方は、女の子の言葉を聞いて「ギクツとした」と言われます。なぜなら、その方も「目が見えなくて、かわいそう」だと思っていたから。その思いの裏うらには、上から下へと相手を見下みくだす気持ちがあったのではないかと。しかし、女の子の「困っている人」という言葉には、同じ地平ちへいに立つ等ひとしさが感じられたというのです。誰だれしも、困る時はある。だから、

困った時にはお互いさま。そんな、相手を一人の人間として敬うやまう、温ぬくもりがあったことに気づかされたからです。



私たちはもしかすると、困った人、弱い立場にいる人「いたわる」つもりで、下したに見ているのかもしれない。車に乗っておられた方も、そんな自分の姿すがたに気づかされて「ギクツ」としたのでしよう。

他人に親切しんせつにする。優しくする。相手に喜んでもらう。これは、人間にとって大きな喜びの一つです。しかし、見下した形の施ほどこしは、相手に屈辱感くつじよくかんを与えかねません。自覚じかくはなくても、相手にそんな思いをさせているのかもしれないのです。

今、舞台演出家の鴻上尚史さん

が、インターネットのサイトで連載  
されている人生相談が話題になって

います。『鴻上尚史のほがらか人生

相談』として書籍化もされ、大きな

反響を呼んでいるようです。

その中に、「高校時代の友人に絶交された」という28歳

女性の相談がありました。それは、「家庭環境に恵まれな

かった友人の悩みを聞いて、解決できるようにアドバイス

してきた」という彼女に、友人から「あなたはいつも上か

ら目線で、話したくもないのに人の家のこととか根掘り

葉掘り聞いてきて高校時代から苦痛だった。独りよがりの

アドバイスで親友のふりをされても迷惑だから、二度と連

絡してこないで欲しい」というメールが送られてきてショ

ックです。私は友人のためと思って言ってきたのに…、と

いうものでした。

鴻上さんは「あなたは、とても優しい人ですね」と理解

を示しながら、「でも、よかれと思ってアドバイスするこ

とは簡単ではない」と語りかけます。「話を聞いて」あげ

ることは素敵なことだが、「解決できるように」というの、



鴻上尚史の

ほがらか人生相談

思慮深い、世間を美に生きる処方箋

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

は、本人の問題。どんな解決策を選ぶか、何をもって解決  
とするか、話を聞いて欲しいだけなのかは、本人が決める  
こと。アドバイスにしても、それを最終的に実行するかと  
うかは、本人次第。何より、自分を「不幸な人」だと思わ  
れることが嫌で、一緒に解決策を考えて欲しいなんて求め  
てない場合もある。「かわいそう。何かしてあげたい」と  
思うことは、とても気をつけないと、相手が無意識に見下  
すことになるのだと。

「いたわる」ということは、とても難しいことなのです。  
確かに、恵まれている状況とはいえなくても、他人から「あ  
なたは不幸な人ね」と頭ごなしに決めつけられるのは、悔  
しいものです。

「障害は不便だが不幸では

ない」とは、視覚、聴覚を

失った中で障害者の福祉・

教育に尽くされたヘレン・

ケラーの言葉ですが、ここ

には不幸と決めつけられることに対する反発が伺えます。

だからといって、「障害はあっても、不幸じゃないよね」と、

苦勞も知らない他人に決めつけられても、あまり良い気、



分はしないはずですが。

自分の思いで決めつけることは、相手を尊重そんちょうしていないということなのでしょう。本人は優しさのつもりでも、独りよがりと言われても仕方ありません。

親鸞聖人は、私たちの慈悲は「思うがごとく助け遂とぐること、極めてありがたい」(『歎異抄』第四条)とされています。どんなに優しい思いであつたとしても、相手を助けることはほとんどありえないのだと。だからこそ「念ねん仏して急ぎ仏になりて、大慈大悲心をもつて思うがごとく衆生を利益す」(同)べきであると言われています。つまり、私たちの慈悲や「いたわり」には、限界げんかいがあるのです。仏様に成ならないと「思うがごとく」救うことなどできません。だからといって、仏様に成るまで何もできないし、する必要もないということではありません。

お念仏を称となえ、阿弥陀様の光に導みちびかれ、照らされていく中で、我が身の愚おろかさや悲しさや弱さを知らされるのです。そこに、「今、私は恵めぐまれた立場にいるかもしれないが、いつどんな縁えんに触ふれて、困る立場になるかもしれない。だから、あなたが困っているのは他人事とは思えない。でも、

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

私にはあなたを助けてあげられるような力はない。だけれども、何か少しでも力になれないだろうか。そして、私が困っているときには、支えて欲しい」と、相手の立場や思いを尊重する「お互たがい様さま」の世界が開かれていくのでしよう。私たちは、「いたわる」ことはできなくても、「いたわりあう」ことはできるのです。

「いたわる」と「いたわりあう」の違いは、「相手」があるかどうかです。阿弥陀様の光に照らされて、私の「いたわり」には限界げんかいがあることを知らされた時に、改あらためて「相手の思いを聞こうという態度たいとが出てくるのでしよう。そこには、共に支え合っている相手の姿も見えてくる。まさに、同じ地平ちへいに立つ、等ひとしさが生まれてくるのです。 ■





迷いの眼には

極楽寺掲示伝道

見えねども

仏はつねに

照らします

## 2月の言葉

日本で一番高い山は富士山<sup>ふじさん</sup>。そして世界で一番高い山は、エベレストです。では、エベレストが発見<sup>はっけん</sup>される前、世界で一番高い山はどの山だったでしょうか？

答えは…、やはり「エベレスト」です。「発見前<sup>はっけんまえ</sup>」とは、人間がエベレストの存在に気づいていなかったただけこと。

私たち人間が気づかなくても、知らなくとも、世界で一番高い山はエベレストに変わり<sup>かわ</sup>はありません。私たちは、自分が知っていること、わかっていることが世界のすべてだと決めつけているのかもしれない。そして、人を決めつけ、自分を決めつけ、人生や世界を小さなものに、



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

してはいないでしょうか。

以前、プラネタリウム

に行ったときのことです。

映画館<sup>えいがかん</sup>のような暗い中で、

ドーム型の天井に、星空の

映像が映し出<sup>うつ</sup>されます。「こ

れがオリオン座です」「これがサソリ座です」といった、

天体説明<sup>てんたいせつめい</sup>のアナウンスが一通り終わった後のこと。「これ

がこの季節の星空です。それでは街の明かりを消すと、ど

んな夜空になるでしょうか。実験<sup>じっけん</sup>してみましよう」という

声流れました。同時に、家庭や街灯<sup>がいとう</sup>、広告灯<sup>こうこくとう</sup>などの街の

光が消え、暗闇<sup>くらやみ</sup>が広がっていきました。

すると…、暗くなつていくほどに小さな星明かりが増え、

最後には満天<sup>まんてん</sup>の星となったのです。もちろん街<sup>まち</sup>の明かりが

消えたから、星の光が点灯<sup>てんとう</sup>したわけではありません。小さ

な星の輝<sup>かがや</sup>きは常に照らしているのですが、街の明かりが明

るすぎて見えなかっただけのこと。街の明かりが消えたこ

とで、輝きが見えてきたのです。田舎<sup>いなか</sup>の夜空は星がよく見

えますが、都会<sup>とかい</sup>ではあまり星が見えないのと同じです。

昼間の星もそうです。星は、昼間も出ているのですが、



太陽の光が明るすぎて見えないだけのこと。長門市仙崎出身の童謡詩人・金子みすゞさんの詩に、

青いお空のそこふかく 海の小石のそのように

夜がくるまでしずんでる、昼のお星はめにみえぬ

見えぬけれどもあるんだよ

見えぬものでもあるんだよ（「星とたんぼぼ」）

とある通りです。

現代社会に生きる私たちは、自分の生活や人生を、明るく輝かせようとして生きています。その為に、健康やお金や若さ、仕事や趣味やモノ、そして地位や名誉を求め、それが人生を輝かせるものだと思っています。しかしその輝きは、病気になる、歳をとり、死を突きつけられるという厳しい現実の中で、一つ二つと手放さなくてはならないものでもあります。そして、「歳をとつたらダメだ」「お金がなかつたらダメだ」「病気になつたら…」「迷惑をかけたら…」「死んだら終わりだ」と、その後には真つ暗闇しか残らないと決めつけているのではないのでしょうか。↓



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

『歎異抄』という書物には、親鸞聖人は「よろずのこと

みなもて そらごとたわごと まことあることなき」と言

われたとあります。私たちが頼りにしていることは、いず

れ頼りにならなくなる。街の明かりが一つ二つと消えてい

くように、いずれは手放さなくてはならない輝きであり、

本当には頼りにならない「そらごとたわごと」なのだ。

しかし、これまで頼りにしてきたことをすべて手放した

後に広がるのは、暗闇ではないのです。自分の輝きが消え

た時に、初めて見えてくる光がある。それが阿弥陀様の

光なのだ教えられます。その光は、自分が元気で

順調な時でも、つねに照らしてくださいます。ちよ

うど、都会の夜空の小さな星のように。昼間の星のように。

そのことに、私たちが気づけていないだけなのです。

京都には、京都女子大学という大学があります。京都大

学が国立ですから、京都女子大学も国立だと思われる方

もあるかもしれませんが、この大学は私立で、しかも浄

土真宗の系列の学校なのです。ですから、仏教の授業が

必須科目。学生は、みんな必ず受けなくてはなりません。

その京都女子大学で長年教鞭をとられていた徳永一道

先生が、自宅近くの病院の会計で、支払いの順番を待っていたときのこと。後ろから、京都女子大学の卒業生だという若い女性に声をかけられました。

「実は先生に電話か手紙でお尋ねしたかったのですが、なかなかその勇気がなくて。今幸いお見かけしたので、声をかけさせてもらいました」と言った彼女は、続けてこう言ったそうです。

「先生。阿弥陀さまだけは、最後まで私を見放さないでいてくださる、というのは本当ですね?」と。

悩みを抱えていたのかもしれない。苦しいことがあったのかもしれないし、病院で会ったというのですから、何か病気だったのかもしれない。これまで頼りにしてきたことが、頼りにならなくなった時、仏教の授業で聞いた「阿弥陀さまだけは、最後まで私を見放さないでいて下さる」という言葉が、彼女の中で光輝いてきたのでしょうか。授業で聞いたときにはピンとこなかったけれども、苦悩の中で浮き上がり、彼女の心の支えとなった。だから徳永先生に、もう一度確かめたかったのだと思います。

私たちは、自分が知っていること、わかっていることが世界のすべてだと決めつけ、人を、自分を決めつけ、人々

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

生や世界を小さなものにしていくのではないのでしょうか。しかし、私が気づくのが、気づくまいが、常に私を照らし続けてくださる光があるのです。煩惱で濁った迷いの眼には見えないけれども、阿弥陀様の光はいつも私たちを照らし続けていてくださる。導き、支え、はたらき続けていてくださっているのです。 ■



極楽寺  
ホームページ

極楽寺だよりの過去の記事をはじめ、盛りだくさんの内容です。

極楽寺.comで検索を

# 寂しい年末年始でした

コロナ禍は、寒さと共に益々酷くなりました。御正忌報恩講は年内に勤めることができましたが、除夜の鐘つきも、元旦会も、お寺の者だけで勤めるという寂しい年末年始となりました。親鸞聖人の御命日である一月十六日も、お寺の者だけでお勤めをしました。お花入れも、お盛物も、お齋もありません。本当に、残念でなりません。長年続けられてきた伝統を守っていくことは、そこに込められた心を次の世代に繋げていくことでもあります。コロナ禍が収束したら、必ず復活させたいと思っています。皆様、何とぞご協力をお願いいたします。



# 大雪で断水に

今年は、久しぶりに大雪のお正月となりました。

写真の通り親鸞聖人の銅像にも、こんもりと雪が

積まりましたよ。急な凍結で漏水も起こり、二日間の断水になりましたが、蛇口をひねって水が出た時の感動は、なかなか味わうことができない経験でした。私たちは、有り難い事や感動すべきことに囲まれているにも関わらず、それを当たり前に行っていることを、身を持って教えられました。断水中は不便な思いもしましたが、寒い中に復旧作業に携われた方々

があるからこそ、二日間で済んだのでしょう。それもまた、有り難く、感動すべきことだと思います。



# リニューアルしました

封筒と『極楽寺だより』のイラストを、リニューアルしました。イラストを描いてくれ

たのは、福岡時代の友人でイラストレーターのいのうえしんぢくん。

私は昔から、いのうえくんのイラストが大好きで、これまでも「ホワ  
ンシィ・コーラス」のイラストなどもお願いしてきました。住職のこ

だわりに、根気よく付き合っていたいただき、今回ようやく完成した次第

です。いかがでしょうか？ご意見を、お聞かせください。





# お知らせ

Oshirase

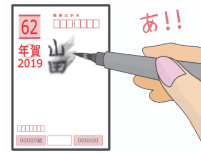
極楽寺の総代を 27 年間勤められた藤田平二さんが、ご往生されました。長い間お世話いただき、本当にありがとうございました。

## 物でお布施

mono de ofuse

書き損じはがき・未使用切手  
未使用テレホンカード  
商品券・ビール券など金券  
CD・DVD  
ゲームソフト・ゲーム機器

家庭で眠っている物を、周りの人のために、活かしませんか。下記の物があれば、お寺までお持ちください。



仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アーユス仏教国際協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の被災者支援に使わせていただきます。



### プルトップも、引き続き集めています！

本願寺山口別院に送り、換金した後、県内の福祉施設に寄付されます。

本堂に設置してある回収箱に、お入れください。



□ 毎年、「お取越<sup>とりこ</sup>し」「御正忌<sup>ごしょうき</sup>」を終えた一月末から二月にかけては、一年で一番ゆっくりできる時期です。本を読んだり、情報を仕入れたり、腰<sup>す</sup>を据えて学びを深めることができる時期でもあります。□ でも、それだけではありません。実は私、昨年から DIY にハマっているのです。DIY とは "do-it-yourself" の略で、直訳<sup>ちよくやく</sup>すれば『自分自身でやる』。いわゆる日曜大工<sup>にちようだいこく</sup>です。

近頃はホームセンターや百元ショップにも DIY コーナーがありますし、テレビやインターネットにも多くの情報が。色々と勉強しながら、楽しんでいます。□ お気づきの方もおられるかもしれませんが、本堂トイレのハンドペーパーケースや、トイレの案内板などは、住職の手作り。その他にも、棚<sup>たな</sup>や扇風機<sup>せんぷうき</sup>のリメイクなどもしています。ちなみに、今回の主な作品としては、ボロボロだった納骨堂の椅子と机を塗り直しました。よろしければ、感想<sup>かんじょう</sup>をお寄せいただくと嬉しい限りです。(住職)



ビフォー



アフター